

bilateral renal artery stenosis. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

8) Tomosugi N., Iida H., Kida H., Saito Y., Tani Y., Abe T., Nakamoto Y. and Hattori N.: Measurement of circulating immune Complexes in renal diseases by four different methods. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

9) Tani Y., Abe T., Kida H., Saito Y., Tomosugi N., Iida H., Nakamoto Y. and Hattori N.: The significance of B lymphocyte subset pattern in primary renal diseases. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

10) Kida H., Tani Y., Abe T., Saito Y., Tomosugi N., Iida H., Nakamoto Y. and Hattori N.: Etiological and clinical Significance of serum immunoglobulin E and surface immunoglobulin E positive lymphocyte in minimal change nephrotic syndrome. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

## 内 科 学 (3)

教 授	佐々木	博
助 教	井 上	恭 一
講 師	田 中	三 千 雄
講 師	中 野	護
助 手	小 島	隆
助 手	市 田	隆 文
助 手	斎 藤	清 二
文部技官	桑 原	芳 弘

### ◆ 研究概要

1) 肝内胆汁うつ滞：ヒト急性肝内胆汁うつ滞の成因，病理組織像，臨床的特徴について検討し，実験モデルとしてはラットにリトコール酸持続投与時の微細構造を検索した。慢性肝内胆汁うつ滞については，原発性胆汁性肝硬変の病態，とくに銅沈着との関連について検討した。

2) B型肝炎ウイルス(HBV)：HBs 抗原陽性肝疾患患者の肝細胞内HBVの局在を酵素抗体法を用いて，光顕，電顕的に検索し，とくに肝細胞膜表面のHBs抗原分布に関する知見を得た。

3) アルコール性肝障害：従来よりのアルコール性肝障害に関する臨床病理学的研究を継続したが，

その中でもアルコール性肝障害に特徴的所見と考えられるアルコール硝子体の電顕像について，原発性肝癌切除標本にみられた同様の硝子体を検索し，Filament様 構造物を確認した。

4) 肝疾患の治療：劇症肝炎に肝補助装置を用いる治療を行い，血漿アミノ酸動態との関連においてその効果を検討した。また慢性肝炎，亜急性肝炎に対するステロイド剤の効果を機能検査，肝組織像，転帰の面より明らかにした。

5) 消化管における消化吸収の機序：内視鏡および内視鏡下小腸生検により，消化管における脂肪の消化吸収機序を明らかにした。

### ◆ 著 書

1) 佐々木 博，川村 正，西 正与，小島 隆：肝内胆管系上皮，細胞の微細構造，33-43，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

2) 佐々木 博，佐藤英司，市田文弘：急性肝内胆汁うつ滞，208-225，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

3) 松下 寛，佐々木 博，市田文弘，白木和夫：本邦における肝内胆汁うつ滞の疫学，181-199，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

4) 井上恭一，佐々木 博，市田文弘：若年性小葉間胆管形成不全症，282-293，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

5) 佐々木 博，上村朝輝，長山正四郎，吉川明，市田文弘：HBおよびHA抗原，137-152，常岡健二，亀田治男編，消化器病疾患最近の進歩 あすへの内科展望，78-79，金原出版，1979。

6) 佐々木 博，川村 正，市田文弘：胆汁うつ滞，130-161，織田敏次，阿部 裕，中川昌一，滝島 任，堀内淑彦，鎮目和夫，古川俊之，祖父江逸郎，内野治人，尾前照雄編，内科学セミナーLGI ウイルス性肝炎，永井書店，1979。

7) 佐々木 博，井上恭一，市田文弘：薬剤アレルギーによる肝障害の臨床，135-145，日本医師会編，日本医師会医学講座，金原出版，1979。

8) 鈴木 茂，田中三千雄(共著)，竹本忠良(監修)：色素内視鏡と実体顕微鏡検査法(単行本)，38-117，医学図書出版，1979。

### ◆ 原 著

1) 佐々木 博：劇症肝炎の病態と対策，新潟医学会雑誌 93(9)：633-639，1979。

2) 佐々木 博, 市田文弘, 井上恭一, 佐藤英司, 大貫啓三, 上遠野 淳, 川村 正, 樋口清博, 曾我憲二: 難治性肝疾患のステロイド療法, ホルモンと臨床 27(10) 1117-1124, 1979.

3) 市田文弘, 永井茂雄, 関根輝夫, 佐々木 博: 交換輸血, 診断と治療 67(9): 1894-1898, 1979.

4) 佐々木 博, 酒井一也, 市田文弘: 急性肝不全の治療: とくに交換輸血療法およびPolyacrylonitrile膜治療法による成績と血漿アミノ酸の変動について, 最新醫學 34(11): 2534-2541, 1979.

5) 佐々木 博, 上村朝輝, 市田文弘: HB抗原保有肝細胞と浸潤リンパ球とのinteractionに関する電顕的研究, 第10回犬山シンポジウム 肝 in Situにおける反応論 171-176, 1979.

6) 佐々木 博: 副腎皮質ステロイド療法の適応と限界 難治性肝疾患のステロイド療法, 第20回日本医学会総会誌 171-176, 1979.

#### ◆ 総 説

1) 市田文弘, 長山正四郎, 井上恭一, 中野 護, 市田隆文: 術後肝障害に対する対策, 整形・災害外科 22(5): 465-469, 1979.

2) 井上恭一, 中野 護: 肝炎の治療と患者の生活指導 臨床看護 5(6)通巻第57号: 57-62, 1979.

3) 佐々木 博, 市田文弘, 酒井一也, 鈴木正司, 大森 伯, 平沢由平: 劇症肝炎における血液透析療法, 総合臨床 28(6): 1087-1094, 1979.

4) 佐々木 博, 市田文弘, 中野 護, 市田隆文, 樋口清博: 薬物性肝障害の肝の形態, 臨床成人病 9(4): 555-560, 1979.

5) 佐々木 博, 井上恭一, 大貫啓三: 検査から見た肝の病変, 臨床病理 27(11): 963-969, 1979.

#### ◆ 速 報

1) 小島 隆, 市田隆文, 小島秀男, 吉川 明, 長山正四郎, 上村朝輝, 佐々木 博, 市田文弘: 酵素抗体法による肝組織内HBs抗原の局在に関する電顕的検討, 膜型局在について, 肝臓 20(2): 195, 1979.

#### ◆ 学会報告

1) 佐々木 博: 副腎皮質ステロイド療法の適応と限界 難治性肝疾患のステロイド療法 (シンポジウム), 第20回日本医学会総会, 1979. 4, 東京.

2) 川村 正, 市田隆文: A型B型及び輸血後非A非B型急性ウイルス肝炎の腹腔鏡所見と組織像の対比 (シンポジウム), 第21回日本消化器内視鏡学会総会, 1979. 4, 東京.

3) 酒井一也, 佐々木 博, 市田文弘: Polyacrylonitrile membrane を用いた人工肝補助装置による劇症肝炎の治療——アミノ酸除去能を中心に——

(シンポジウム), 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

4) 田中三千雄, 鈴木 茂: 消化吸収について——内視鏡像の意義づけを中心に (シンポジウム), 第21回日本消化器病学会, 第17回日本消化器内視鏡学会, 第17回日本胃集団検診学会, 合同秋季大会, 1979. 10, 前橋.

5) 司会: 藤沢 洌, 原田 尚, パネリスト: 庵政志, 井上恭一, 太田康幸, 木村和夫, 清沢研道, 久保保彦, 小坂義種, 針原重義: 慢性肝疾患の予後をめぐって(パネルディスカッション), 第65回日本消化器病学会総会, 1979. 4, 東京.

6) 中野 護, 曾我憲二, 市田隆文, 樋口清博, 永井茂雄, 長山正四郎, 石原 清, 稲垣威彦, 佐々木 博, 市田文弘: 肝疾患におけるADCC活性とimmunocomplex についての研究 第65回日本消化器病学会総会, 1979. 4, 東京.

7) 小嶋允夫, 佐藤英司, 川村 正, 市田隆文, 上村朝輝, 市田文弘, 井上恭一, 伊藤慶夫: サルコイドーシスの腹腔鏡所見と肝組織像及び臨床所見との対比 第21回日本消化器内視鏡学会総会, 1979. 4, 東京.

8) 市田隆文, 尾崎俊彦, 富沢峰雄, 市田文弘: 肝過誤腫と考えられる1例, 第156回日本消化器病学会, 1979. 5, 東京.

9) 市田隆文, 本間 明, 尾崎俊彦, 柴崎浩一, 市田文浩: 肝癌診断例60症例のretrospectiveな診断法の検討とその分析, 第15回肝癌研究会, 1979. 6, 大阪.

10) 渡辺省三, 古川 明, 小島秀男, 長山正四郎, 上村朝輝, 佐々木 博, 市田文弘, 緒方規矩雄: B型肝炎の経過とHBs Ag-specific DNA polymerase 活性の動的検討, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

11) 小島 隆, 市田隆文, 小島秀男, 吉川 明, 長山正四郎, 上村朝輝, 佐々木 博, 市田文弘: 酵素抗体法による肝組織内HBs抗原の局在に関する電顕的検討第2報, 膜型局在について, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

12) 仲 紘嗣, 小嶋允夫, 大貫啓三, 佐藤英司, 上村朝輝, 稲垣威彦, 佐々木 博, 市田文弘: 原発性胆汁性肝硬変ならびに各種胆汁うっ滞例における肝組織内の銅及びオルセイン陽性顆粒状物質について, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

13) 尾崎俊彦, 馬場佳弘, 渡辺 裕, 富沢峰雄, 市田隆文, 小嶋允夫, 佐藤英司, 大貫啓三, 佐々木 博, 市田文弘, 吉田奎介: びまん性肝疾患における

C Tの適応と肝, 脾容積計測の診断的意義について, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

14) 渡辺俊明, 永井茂雄, 上村朝輝, 市田文弘, 佐々木 博, 上村 旭, 酒井一也, 鈴木正司, 平沢由平: 急性肝不全における合併症の検討 転帰および治療との関連について, 第5回急性肝不全治療研究会, 1979. 7, 大阪.

15) 石原 清, 稲垣威彦, 中野 護, 永井茂雄, 樋口清博, 市田隆文, 市田文弘: 肝細胞障害機構についての免疫学研究 in vitro での肝細胞と自己リンパ球との反応について, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

16) 仲 紘嗣, 赤城靖隆, 川村 正, 西 正与, 上村朝輝, 市田文弘, 市田隆文, 小島 隆, 佐々木博: 原発性胆汁性肝硬変における胆管上皮および肝細胞の電顕的観察, 第11回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 1979. 10, 神戸.

17) 川村 正, 赤城靖隆, 西 正与, 仲 紘嗣, 上村朝輝, 市田文弘, 市田隆文, 小島 隆, 佐々木博: 実験的胆汁うっ滞における Microfilament の電顕的研究, 第11回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 1979. 10, 神戸.

18) 斎藤清二, 津田隆志, 小池雅彦, 野本 実, 青柳 豊, 市田文弘: 血中・尿中に二種のM蛋白を認め, 著明な腫瘤形成傾向を呈した多発性骨髄腫の1例, 第65回日本内科学会信越地方会, 1979. 11, 新潟.

19) 田中三千雄, 藤倉信一郎, 樋口清博, 斎藤清二, 小島 隆, 佐々木 博, 鈴木修一郎, 藤田敏雄, 斎藤寿一, 田沢賢次, 伊藤 博, 藤巻雅夫, 小関支郎: 十二指腸における adenoma の形態——実体顕微鏡を中心に, 第40回日本消化器病学会北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

20) 藤倉信一郎, 田中三千雄, 樋口清博, 斎藤清二, 佐々木 博, 鈴木 茂, 黒川きみえ, 遠藤光夫: 十二指腸のリンパ小節に関する研究——第1報 臨床像について, 第34回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

21) 橋本忠美, 鈴木 茂, 長谷川利弘, 堤 京子, 田中三千雄, 鈴木博孝, 遠藤光夫: P N N G 実験犬における胃粘膜像 (特に腸上皮化性を中心に), 第29回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1979. 11, 東京.

22) 大田由巳子, 丸山正隆, 渡辺伸一郎, 田中三千雄, 白鳥敬子, 堤 京子, 黒川きみえ, 鈴木博孝: 11年間追求した胃潰瘍例の検討, 第29回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1979. 11, 東京.

23) 市田隆文, 曾我憲二, 尾崎俊彦, 市田文弘: 肝良性腫瘍の総合画像診断 第1報 血管造影像を中心に, 第21回日本消化器病学会秋季大会, 1979. 10, 前橋.

24) 永井茂雄, 稲垣威彦, 樋口清博, 長山正四郎, 中野 護, 石原 清, 市田文弘: 肝疾患における末梢血抗体産生細胞に関する研究, 第7回日本臨床免疫学会総会, 1979. 6, 札幌.

25) 市田隆文, 本間 明, 永井茂雄, 市田文弘: セファロスポリン系抗生剤の2剤に cross-sensitization を示した肝障害の1例, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

26) 曾我憲二, 赤城靖隆, 佐々木 博, 市田文弘, 酒井一也: 免疫不全と溶血性貧血を伴ったサルファ剤によると思われる肝内胆汁うっ滞の1例, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

27) 小島 隆, 石原 清, 佐々木 博, 市田文弘, 井上恭一: ドリンク剤による低ガンマグロブリン血症を伴った慢性薬剤起因性肝内胆汁うっ滞の1例, 第15回日本肝臓学会, 1979. 6, 大阪.

## 皮 膚 科 学

教授	諸 橋 正 昭
助教授	五十嵐 良 一
講師	福 居 憲 和
助手	高 橋 省 三
助手	須 藤 成 章

### ◇ 研究概要

1979年の研究活動は下記の如くである。

#### 1. 毛嚢脂腺系の病態生理に関する研究

1) 毛漏斗部・脂腺導管部の層板顆粒の動態について報告し, 本顆粒の角化以外の機能を示唆した。さらに Lanthanum など種々の電顕細胞化学的方法を用いて検索中である。

2) 毛包に補体成分の沈着を証明し, さらに毛器官における補体成分の動態と意義について検索中である。

3) 円形脱毛症における液性および細胞性免疫の異常について報告した。さらに本症の A D C C を現在検索している。

4) ヒト表皮抽出物質の円形脱毛症患者リンパ球に与える影響について検索し発表の予定である。

5) 今後, 上記研究を進めるとともに, 性ホルモン, とくに男性ホルモンの毛嚢脂腺系への影響を動物実験により生化学的, 免疫組織学および電顕